

# 看護系大学生の国際看護活動に関する関心や期待

—国際看護学教育の実態調査との比較からの考察—

久保宣子・山野内靖子・蛭田由美

## 要旨

本研究の目的は、看護系大学生の国際看護活動に関する関心や期待を明らかにし、国際看護活動論の授業の展開に関する示唆を得ることである。看護系大学生が関心をもっている項目は、「世界の看護の現状の理解」などであった。期待する授業内容は、「子どもの健康と環境」などであった。国際看護学教育の実態調査との比較から、多くの教育機関が科目の授業目標として掲げているにも関わらず、学生の関心の低い項目は「プライマリーヘルスケアの取り組みの理解」などであった。同様に、多くの教育機関が授業で取り上げる事例として掲げているにも関わらず、学生の期待が低い項目に、「在日外国人の医療相談・支援」があげられた。国際看護活動論の授業の展開に関する課題が示唆された。

キーワード：国際看護，看護系大学生，意識調査

## I. はじめに

文部科学省は、全国の看護系大学が学士課程における看護師養成教育に共通して取り組むべき内容を抽出し、「看護学教育モデル・コア・カリキュラム」を策定した。学修目標の一つには、「諸外国の看護・保健ニーズについて理解し、諸外国における支援の在り方や国際協力について理解できる」と示されている<sup>1)</sup>。また、「学士課程においてコアとなる看護実践能力と卒業時到達目標」<sup>2)</sup>では、看護の国際化の視点から、多様な文化背景をもつ人々と関わる機会が多くなるなかで、多様な視点から看護の役割について学んでいくことが求められている<sup>2)</sup>。

看護教育機関は、看護職を目指して学習を開始した学生が、世界の看護職として国際的な看護活動ができるように育てることが、その役割となる。

これまで我々は、国際看護学に関する調

査研究を重ねてきた<sup>3) 4) 5)</sup>。2015年に行った文献分析によると、国際看護学に関する基礎教育では、コンピテンシーモデルの構築および能力開発という点で、いまだ不十分であった<sup>3)</sup>。国際看護を担う人材の育成は、大学学士課程で行うのか大学院教育課程で行うのか、看護基礎教育の時点でどのような授業内容にするのか多くの疑問が残った。そこで、2016年に全国の大学看護学科を対象に国際看護学教育の実態調査を行い、その実態を明らかにした<sup>4)</sup>。さらに、2016年から2018年にかけて、4月末時点での1年生を対象にして、看護系大学生の国際看護活動に関する関心や期待を明らかにするために、横断的に調査を積み重ねてきた。

看護系大学生の国際看護活動に関する関心や期待を明らかにすることは、看護の国際化の視点から、看護の役割について学んでいくための資料となる。また、全国の大学看護学

科の国際看護学教育の実態と比較し考察することは、授業の展開や試行錯誤を重ねる教育現場のための示唆が得られる。

## II. 研究目的

看護系大学生の学生の国際看護学に関する学習ニーズやイメージする国際看護活動の在り方、国際看護活動に関する関心や期待を明らかにし、国際看護活動論の授業の展開に関する示唆を得ることを目的とした。

## III. 研究方法

### 1. 研究デザイン

本研究は、実態調査による量的記述研究である。

### 2. 調査対象

2016年から2018年にかけて、4月末時点のA大学看護学科の1年生を対象にして、横断的に調査を実施した。

### 3. 調査内容とデータの分析方法

調査内容は、質問用紙による自記式質問紙である。調査項目は、基本属性として性別と年齢、海外への関心、授業への期待、海外研修への意識について質問をした。結果は、集計を行い、現状を量的に記述した。

### 4. 調査方法及び調査期間

調査票に研究目的と調査への協力依頼の文書に基づき、研究者が口頭で説明した。調査は授業の空き時間あるいは終了時を利用し、一斉に配布・回収した。無記名であるため、回収後の辞退はできないことを説明した。調査は無記名で行い、調査の匿名性を守ること、記入を望まない項目は無記入でよいこと、調査への協力を辞退することによる不利益は一切ないことを説明し、また調査依頼書にも明記した。

### 5. 倫理的手続き

本研究は、八戸学院大学・八戸学院短期大学部研究倫理審査委員会の審査を受け

認を得て実施した(15-21)。対象者には、研究趣旨と方法について説明し承諾を得た。具体的内容は、研究の趣旨、参加の自由、匿名性の保持、データの秘密厳守などについて口頭と書面にて伝え同意を得た。

## IV. 結果

対象は3年間で計208名であり、回収部数は208で回収率は100%であった。男性35名(16.8%)、女性173名(83.2%)であった。

### 1. 海外への関心

国際交流および海外の保健医療看護事情について関心をもっていることを、13項目の選択肢の中から複数回答を求めた。回答の多かった順に、2016年は「世界の看護の現状の理解」54(79.4%)、「国際協力を行う上で看護職に必要とされる能力の習得」35(51.5%)、「世界の健康問題の理解」33(48.5%)であった。2017年は、「世界の看護の現状の理解」43(65.2%)、「世界の健康問題の理解」35(53.0%)、「諸外国の先進的な医療システムの理解」30(45.5%)であった。2018年は、「世界の看護の現状の理解」61(82.4%)、「諸外国の先進的な医療システムの理解」45(60.8%)、「世界の健康問題の理解」39(52.7%)であった。3年間、国際交流および海外の保健医療看護事情について関心をもっている項目の上位3つは、概ね3年間共通していた。

一方で、関心が低い項目は、「プライマリーヘルスケアの取り組みの理解」「国際協力の関係機関の活動内容の理解」「国際協力活動に参加するための方法の理解」「諸外国の社会・経済・教育・文化的な相違の理解」であり、関心が低い項目についても概ね3年間共通していた(図1)。

### 2. 授業への期待

国際看護学関連の科目で期待する授業内容について、13項目の選択肢の中から複数回答を求めた。回答の多かった順に、2016年は「子どもの健康と環境」43(63.2%)、「先進国の進

んだ医療技術・システム」40(58.8%)、「地震・津波等の自然災害時の緊急支援」36(52.9%)であった。2017年は、「子どもの健康と環境」44(66.7%)、「感染症とパンデミック危機」36(54.5%)、「地震・津波等の自然災害時の緊急支援」35(53.0%)であった。2018年は、「先進国の進んだ医療技術・システム」44(59.5%)、「子どもの健康と環境」43(58.1%)、「紛争と難民と健康問題」40(54.1%)であった。

3年間、国際看護学関連の科目で期待する授業内容は、概ね共通していた。

一方で、期待する数が低い項目は、「経済開発・産業発展と環境・健康問題」「国際協力活動に参加するための方法」「在日外国人の医療相談・支援」であり、期待が低い項目についても概ね3年間共通していた(図2)。

科目授業においてどのような学習方法を希望するか8項目の選択肢の中から複数回答を求めた。回答の多かった順に、「VTR、DVD、スライド、映画等 視聴覚教材」、「教員による講義」、「国際協力等の経験のある外部講師による講義・講演」であり、概ね3年間共通していた。

### 3. 海外研修への意識

在籍する大学が企画している海外研修の認知について質問した結果、海外研修があることは202名(97.1%)の学生が知っていた。

その海外研修に関心があるか質問したところ、「ある」と回答したのは、2016年は34名(50.0%)であった。2017年は、42名(63.6%)であった。2018年は、45名(60.8%)であった(図3)。

海外研修の内容の希望について11項目の選択肢の中から複数回答を求めた。回答の多かった順に、2016年は「医療福祉施設の訪問・見学」39(57.4%)、「ボランティア活動」37(54.4%)、「現地の人や大学生との交流」35(51.5%)であった。2017年は、「医療福祉施設の訪問・見学」48(72.7%)、「現地の人や大学生との交流」45(68.2%)、「文化体験」

34(51.5%)であった。2018年は、「医療福祉施設の訪問・見学」52(70.3%)、「現地の人や大学生との交流」48(64.9%)、「訪問先国の医療・福祉・看護事情に関するレクチャー」39(52.7%)であった。

3年間、海外研修の内容の希望は、概ね共通していた(図4)。

### 4. 海外での活動への将来的な希望

将来の海外活動について、2016年は「希望する」13名(19.1%)、「希望しない」28名(41.2%)、「どちらとも言えない」26名(38.2%)であった。2017年は「希望する」15名(22.7%)、「希望しない」22名(33.3%)、「どちらとも言えない」29名(43.9%)であった。2018年は「希望する」10名(13.5%)、「希望しない」31名(41.9%)、「どちらとも言えない」31名(41.9%)であった(図5)。

## V. 考察

### 1. 学生の関心と授業科目の目標との比較

学生が国際交流および海外の保健医療看護事情について関心をもっている項目の上位3つは、3年間、概ね共通していた。「世界の看護の現状の理解」、「国際協力を行う上で看護職に必要なとされる能力の習得」、「世界の健康問題の理解」、「諸外国の先進的な医療システムの理解」などの項目が、学生の関心が高い項目として明らかになった。

一方で、2016年4月時点の国際看護学教育の実態調査では、科目の授業目標について回答の多かった順に、「世界の健康問題の理解」、「世界の人々の健康に影響を与える要因の理解」、「国際協力機関の活動内容の理解」、「諸外国の社会・経済・教育・文化的な相違の理解」等であった<sup>4)</sup>。

これらのことより、学びたい側の関心と多くの教育機関が科目の授業目標として掲げていることが一致しているのは、世界の健康問題についてであった。国際看護という言葉からも、世界の人々の健康や看護に関心が高く

なりやすいと考えられる。反対に、学びたい側の関心と多くの教育機関が科目の授業目標として掲げていることが一致していない項目は、「国際協力機関の活動内容の理解」、「諸外国の社会・経済・教育・文化的な相違の理解」であった。

国際協力に関して、看護職に必要とされる能力については関心が高い。しかし、国際協力の関係機関の活動内容の理解については、関心が低いことが明らかになった。このことから、国際協力の活動内容の理解が深まると、「看護職に必要とされる能力についての理解」や「国際協力活動に参加するための方法の理解」も進むと考えられる。

また、国際看護学は、国や地域、民族間の保健医療・健康・看護の格差是正と多様な文化・価値観共存とを究極の目的として、一国の看護職者だけでは解決できない看護や保健上の問題、および世界共通の看護課題に取り組む学問<sup>4)</sup>である。関心が低い項目には、「プライマリーヘルスケアの取り組みの理解」、「諸外国の社会・経済・教育・文化的な相違の理解」があげられており、関心をもって理解が進められるような工夫が課題となる。

## 2. 授業への期待と授業で取り上げる事例

学生が国際看護学関連の科目で期待する授業内容は、3年間、概ね共通していた。「子どもの健康と環境」、「先進国の進んだ医療技術・システム」、「地震・津波等の自然災害時の緊急支援」、「感染症とパンデミック危機」が高い項目であった。2016年4月時点の国際看護学教育の実態調査で、授業で取り上げる事例について「子どもの健康と環境」、「途上国における出産事情と妊産婦死亡率の改善」が高い項目であげられていた<sup>4)</sup>。3年間の調査結果と共通しており、母子保健の重要性が浸透していると考えられる。また、諸外国の先進的な医療システムに興味を持ち、地球規模で起きる自然災害に関心がある国際的

な視野をもつ学習姿勢がみえてくる。

一方で、学生の期待が低い項目は、「経済開発・産業発展と環境・健康問題」「国際協力活動に参加するための方法」「在日外国人の医療相談・支援」であり、期待が低い項目についても3年間共通していた。「経済開発・産業発展と環境」「在日外国人」などの言葉は、看護職を目指して学習を開始した学生にとって、看護と直接つながりにくい言葉であると考えられる。本学では、カリキュラム上、入学してから国際看護活動論の受講まで、およそ3年半の期間がある。その期間に、看護とは直接つながりにくい言葉についても視野や思考を深めることで授業への期待や関心が大きくなると考えられる。

また、多くの教育機関で「在日外国人の医療相談・支援」についても授業で取り上げる事例にすることが明らかになっている<sup>4)</sup>。2018年には、訪日外国人が3000万人を超えた<sup>7)</sup>ことや出入国管理法改正により単純労働を含む外国人労働者の受け入れを拡大する大きな転換を迎えた。このことは、看護職が在日外国人の健康問題に関わる機会の拡大を示す。そのため、在日外国人の健康問題について強化して、授業展開する必要があることが示唆される。

## 3. 海外研修と将来

海外研修に関心があるか質問したところ、3年間毎年、5割から6割の学生が「ある」と回答していた。2016年に全国の大学看護学科を対象に国際看護学教育の実態調査では、海外研修を実施しているという回答は53(58.9%)、実施していないという回答は28(31.1%)、計画中が4(4.4%)であった<sup>4)</sup>。半数以上の学生が海外研修に関心を持ち、また、半数以上の大学が海外研修を実施している現状からは、海外研修が身近な学習方法となっていることが推測される。

海外研修の学習成果の報告として、東田ら

は、体験を通じて国際的な視野を広め、将来のキャリアにつながる学習意欲が強く意識づけられるとしている<sup>8)</sup>。全国の大学看護学科の6割が海外研修を実施している現状であり、海外研修の学習成果の報告からは、学生の希望を踏まえながら海外研修を積極的に進めることへの効果が期待される。このため、在籍している大学が進めている国際交流活動は、学生にとって、将来に向けた学習意欲を高めるプログラムとして構築する必要がある。

また、海外研修の内容の希望について回答の多かった項目の上位は、3年間、共通していた。「医療福祉施設の訪問・見学」、「ボランティア活動」、「現地の人や大学生との交流」、「文化体験」、「訪問先国の医療・福祉・看護事情に関するレクチャー」などであり、学生は参加型や行動型のアクティブな研修内容希望していた。このことは、学生が自分の五感を使って、能動的にボランティア活動や現地の人、及び大学生との交流から、国際的な視野を広め、将来のキャリアにつながる学習意欲が強まることが示唆される。

調査時点では、将来の海外活動について、2016年は「希望する」13名(19.1%)、「希望しない」28名(41.2%)、「どちらとも言えない」26名(38.2%)であった。2017年は「希望する」15名(22.7%)、「希望しない」22名(33.3%)、「どちらとも言えない」29名(43.9%)であった。2018年は「希望する」10名(13.5%)、「希望しない」31名(41.9%)、「どちらとも言えない」31名(41.9%)であった。今後、国際看護活動について学びや経験を重ねると変化する可能性が十分にある。積み重ねる学習の中で、自分自身で将来について選択できるよう支援していくことが重要となる。

## VI. おわりに

3年間の調査結果から、看護系大学生の国際看護活動に関する関心や期待が以下のように明らかになった。

1. 国際交流および海外の保健医療看護事情について関心をもっている項目の上位は、「世界の看護の現状の理解」、「国際協力を行う上で看護職に必要とされる能力の習得」、「世界の健康問題の理解」、「諸外国の先進的な医療システムの理解」であった。
2. 多くの教育機関が科目の授業目標として掲げているにも関わらず、学生の関心の低い項目として「プライマリーヘルスケアの取り組みの理解」、「諸外国の社会・経済・教育・文化的な相違の理解」があげられた。
3. 国際看護学関連の科目で期待する授業内容は、「子どもの健康と環境」、「先進国の進んだ医療技術・システム」、「地震・津波等の自然災害時の緊急支援」、「感染症とパンデミック危機」であった。
4. 多くの教育機関が授業で取り上げる事例として掲げているにも関わらず、学生の期待が低い項目に、「在日外国人の医療相談・支援」があげられた。
5. 海外研修への関心は、半数以上の学生が「ある」と回答し、海外研修の内容は、参加型や行動型のアクティブなものを希望していた。

今後の課題は、入学時と比較し、学習が進み学年を経たことで、国際看護活動に関する学習ニーズがどのように変化したのか捉えることである。

## VII. 謝辞

本研究にあたり、調査にご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

なお、本研究は学校法人光星学院イノベーションプログラム(基金)研究等補助金の助成事業を受けた「看護基礎教育における国際看護学教育の教育プログラムの開発」の一環として行った。

### 引用文献

- 1) 文部科学省, 大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会:看護学教育モデル・コア・カリキュラムー「学士課程においてコアとなる看護実践能力」の修得を目指した学修目標ー, 2017.
- 2) 文部科学省, 学士課程においてコアとなる看護実践能力と卒業時到達目標, 2011, 41-42.
- 3) 久保宣子, 山野内靖子, 蛭田由美:文献から考察する看護基礎教育における国際看護学教育の現状, 八戸学院短期大学研究紀要, 42, 2016, 69-77.
- 4) 蛭田由美・久保宣子・山野内靖子:看護基礎教育における国際看護学教育プログラムの開発に関する研究ーわが国の大学看護学科における国際看護学教育の実態ー, 八戸学院大学紀要第 54 号, 2017, 39-54.
- 5) 久保宣子, 山野内靖子, 蛭田由美:看護大学生の国際看護活動に関する意識および教育ニーズに関する調査, 八戸学院大学紀要第 57 号, 2018, 151-161
- 6) 茂野香おる他, 看護学概論 (系統看護学講座), 第 16 版, 医学書院, 2016, 292.
- 7) 日本政府観光局 (JINTO), 訪日外客統計 [https://www.jnto.go.jp/jpn/statistics/since2003\\_tourists.pdf](https://www.jnto.go.jp/jpn/statistics/since2003_tourists.pdf)
- 8) 東田吉子, 田中覚子, 竹尾恵子:タイ国, ブラパ大学における国際看護論の実施と学習成果, 佐久大学看護研究雑誌, 7(1), 2015, 65-74.

### 執筆者紹介 (所属)

久保 宣子 八戸学院大学 看護学科 助手  
山野内靖子 八戸学院大学 看護学科 講師  
蛭田 由美 八戸学院大学 看護学科 教授

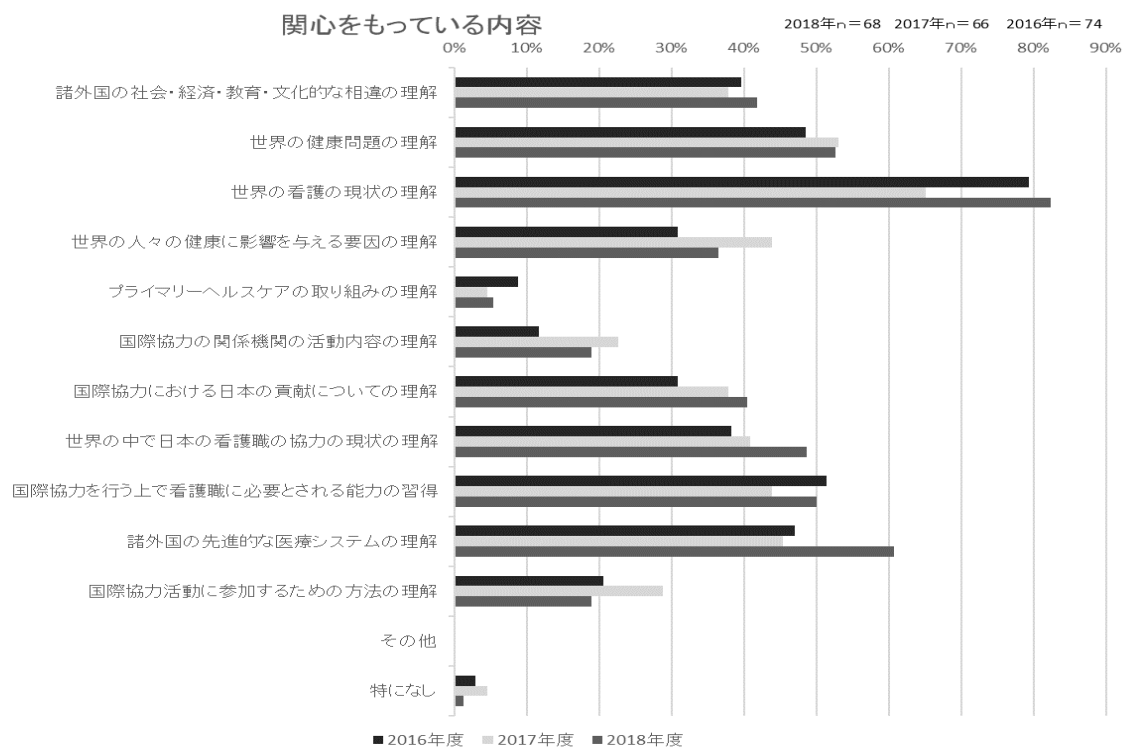


図1. 関心をもっている内容

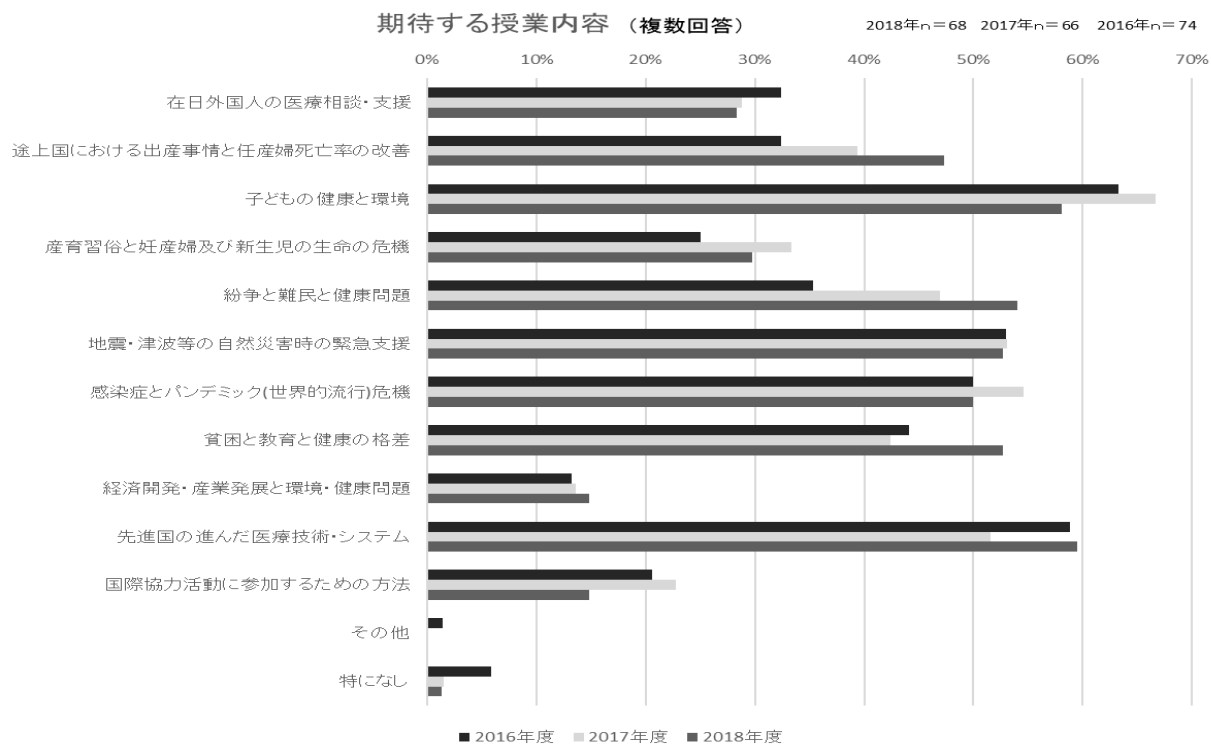


図2. 期待する授業内容

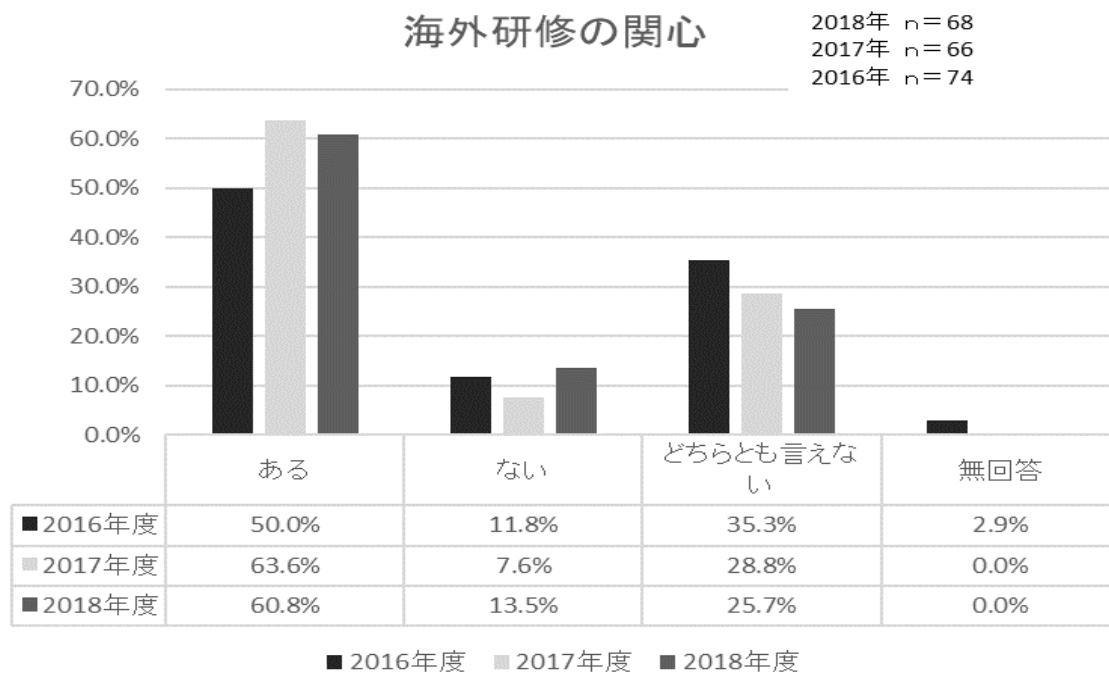


図 3. 海外研修の関心

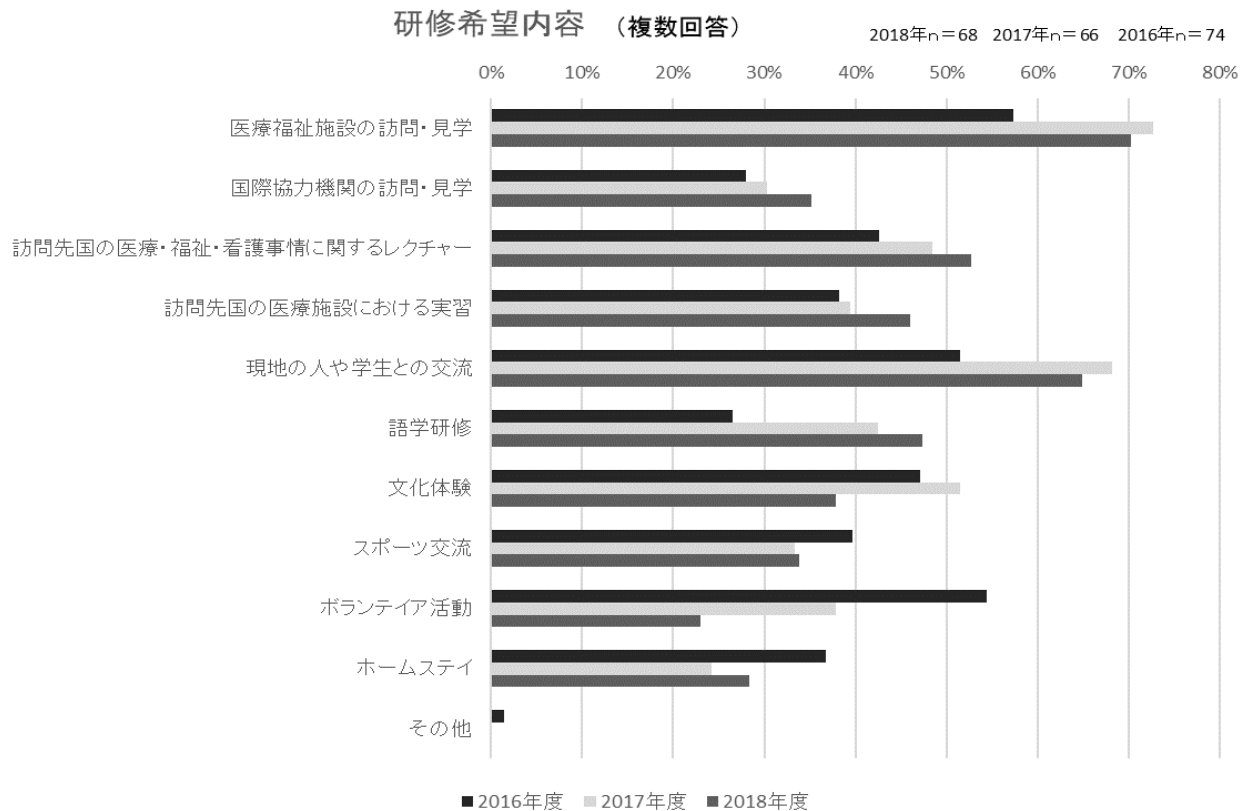


図 4. 海外研修の希望内容



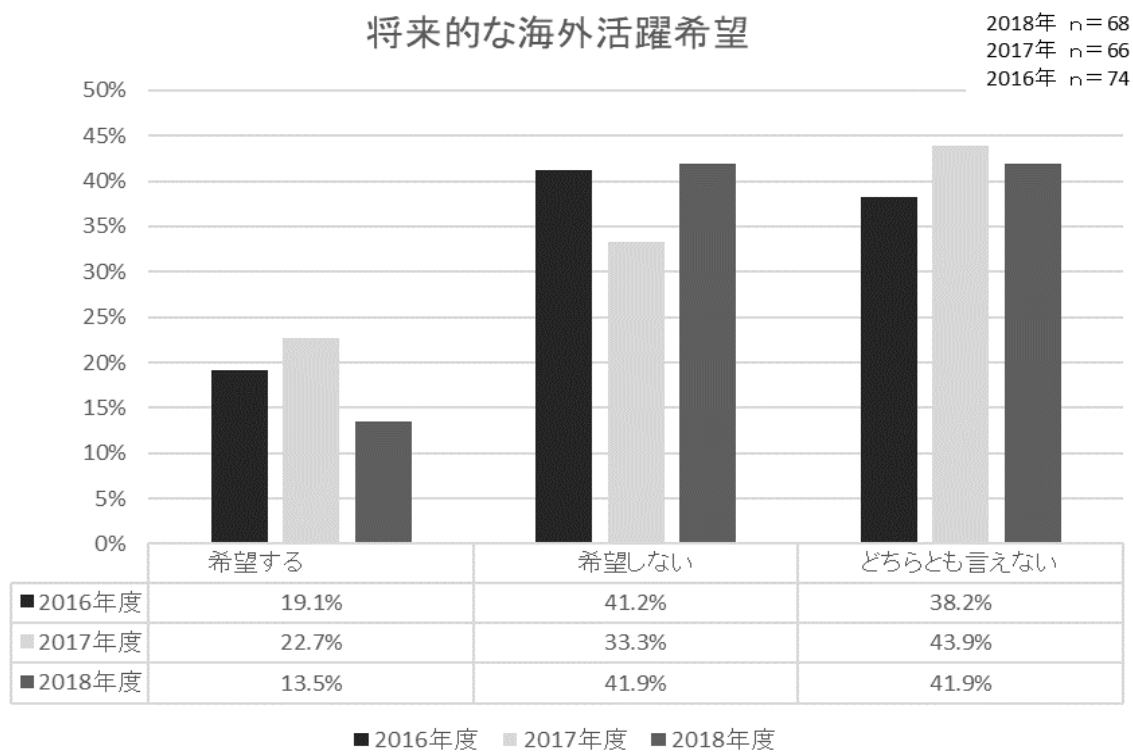


図 5. 将来的な海外活躍希望